

タイブレークとは

プロテニスの試合は、3 セットマッチであれば先に 2 セットを取った方が、5 セットマッチであれば 3 セットを取ったほうが勝利となります。1 セット取るためには、2 ゲーム以上の差をつけて 6 ゲームを先取しなければならないのですが、通常ゲームカウントが「6-6」になった場合に「タイブレーク」が行われます。

スコア表で「7-6(3)」というようにカッコ書きで表記されているのを見たことはないでしょうか。これは、タイブレークの末セットを落とした選手が、タイブレークで取ったポイント数を表しています。このように、試合を見ていなくても、スコアからタイブレークの結果がわかります。

タイブレークになる条件

セットを取るためには「6 ゲームを先に取る」というルールに加え、「2 ゲーム以上の差をつける」というルールがあります。そのため、「6-5」というスコアでは終わりません。

相手のスコアが 4 ゲーム以下なら、たとえば「6-4、6-3」といったスコアでセットを取れます。しかし、「6-5」の場合はあと 1 ゲーム取る必要があります。次のゲームを取って「7-5」になれば終了ですが、相手が取った場合には「6-6」となり、そのときにタイブレークに突入します。

タイブレークのルール

タイブレークのポイントは「0・15・30・40」ではなく、シンプルに「1・2・3…」と数えます。通常は 7 ポイント取ったら勝利ですが、ここでも「2 ポイント以上の差」というルールがあります。

相手が 5 ポイント以下なら「7-5、7-2」などと 7 ポイント取ったら終われますが、「7-6」の時点ではまだタイブレークが続きます。「8-6」「9-7」など 2 ポイント差がつくまで続きます。

サーブの交代

テニスは、1 ゲームが終わるまでは同じ選手がサーブをします。自分のコートの右側(デュースサイドと呼ぶ)から始まり、次のサーブは逆の左側(アドバンテージサイドと呼ぶ)に移動します。以降、右側から、左側からと順にサーブします。

次のゲームでは相手選手がサーバー(サーブを打つ人)となり、またデュースサイドからのサーブでゲームが始まります。同じようにポイントごとにサイドを変えて打ちます。

タイブレークの場合は、これが少し違ってきます。ここがテニスを始めたばかりの人を混乱させるポイントなので、しっかりおさえましょう！以下では、A 選手と B 選手の試合がタイブレークとなったと仮定して具体例を考えてみます。

1 ポイント目は、A 選手がデュースサイドからサーブします。

2 ポイント目は、(A 選手がアドバンテージサイドからサーブすると思いがちですが)サーブ権は B 選手に移り、アドバンテージサイドからのサーブを行います。3 ポイント目は、同じく B 選手がデュースサイドからサーブします。

4 ポイント目は、A 選手がアドバンテージサイドから、5 ポイント目は同じく A 選手がデュースサイドからサーブしていきます。以降もこの繰り返しです。

つまり、タイブレークの最初のサーバーは 1 本だけしかサーブせず、2 ポイント目からは 2 本ずつサーバーが交代していくのです。サーブを打つ場所も、1 ポイント目だけはデュースサイドから打ちますが、2 ポイント目からのサーバーは、アドバンテージサイド、デュースサイドの順に打つこととなります。

- 1 ポイント目のサーブのみ、1 ポイントだけでサーブ権を交代する
- 2 ポイント目以降は、2 ポイントずつサーブ権を交代する

チェンジコート

タイブレークのチェンジコートは、2 組の合計ポイントが 6 の倍数になったときに行われます。

1 度目のチェンジコートは、合計ポイントが 6 になったとき、つまり 6-0、4-2 といったスコアの場合です。2 度目は合計ポイントが 12 になったとき、3 度目は合計ポイントが 18 になったときに行われます。

チェンジコートの際は休憩時間ですが、タイブレークの場合はベンチに座って休むことができません。立ったままドリンクを少し飲むくらいで、すぐにコートを入れ替わります。

なお、チェンジコート後は、サーバーの 2 ポイント目のサーブで始まることになり、必ずデュースサイドからになります。